

⑤ 石巻市の「コミュニティ・カーシェアリング」の発展と他地域展開等を通じた地域課題解決活動

メンバー

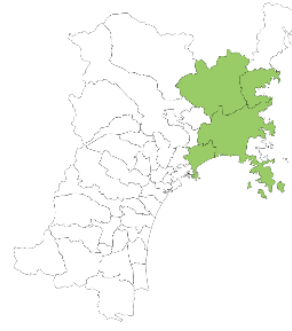
実施者：一般社団法人 日本カーシェアリング協会
連携団体：石巻市役所、南三陸町役場、女川町役場、東松島市役所、グリーンウェブ入谷構想促進委員会、石巻EVカーシェアリング検討委員会、石巻市社会福祉協議会、NPO法人 移動支援Rera、(株)日本総合研究所、東北大学加齢医学研究所、NPO法人 CRファクトリー、上智大学

活動目的

当協会では、東日本大震災後に、石巻市内の交通弱者を抱える復興公営住宅等9地域で、車を使った移動の支え合い活動（コミュニティ・カーシェアリング：CCS）を実施してきた。本事業では、「石巻市のCCSを発展させる介護福祉や交通分野の連携促進」「過疎地・他地域へのCCS導入を通じた移動・生活課題解決の成功モデルづくり」「CCS導入地域間ネットワーク形成」「客観的調査に基づくCCSの多面的価値の可視化」を行うことを通じて、「CCSの全国的普及の土台をつくる」ことを目指す。

対象地域：
宮城県石巻市、
南三陸町、
東松島市、
女川町

人口：
14.72万人（石巻市）、
1.252万人（南三陸町）、
3.958万人（東松島市）、
6,319人（女川町）



取り組み内容

キーワード：・コミュニティ・カーシェアリング／価値の見える化／他地域展開

- ①石巻市におけるCCS発展モデル構築：介護福祉分野での連携（補助制度）が実現した。
- ②過疎地域・周辺自治体でのCCSの実証・導入支援：南三陸町中山間地域でCCS導入（会員：22名）。他の3地域でも実証・導入を調整中（ただしコロナ禍の影響を受け、実証・導入保留中）。
- ③CCS導入地域間ネットワーク形成：大交流会を開始し、石巻市内外13地域のカーシェア会が参加。
- ④CCSの多面的価値に関する調査・エビデンス取得：移動の改善、高齢者の閉じこもり防止・介護予防、男性・若い高齢者の社会参加の機会提供等に貢献していることが確認された。



CCS大交流会の様子

2020年度の活動実績

CCS大交流会実施：2021年3月5日、石巻市内外のCCS導入地域の好事例の共有と交流の促進を目的にオンラインで実施。参加地域：13地域（参加者数約50名）

取り組みが地域に与えた影響

- ・外出支援が46回、買い物ツアーが47回実施された（期間：2020年4月～2021年3月）。（南三陸町）
- ・地域包括ケア・福祉の分野での行政との連携が深まり、CCSの運営基盤が強化された。（石巻市）
- ・交通の課題を抱えながらも対策を講じることができなかった地域に、住民主体の移動支援活動が生まれた。（南三陸町）
- ・本取り組みをきっかけに、共同交通のさらなる発展に向けた地域外の企業との連携の取り組みも生まれた。（南三陸町）

専門家コメント_福島大学

- ・震災後の石巻でスタートした取り組みだが、他地域への展開や大規模災害時の迅速な支援など、取り組みが広がっている点は特筆に値する。CCSがどのような条件（住民の活動圏域やコミュニティの深さなど）で成立させやすいか、その「勘どころ」が見えてくると面白い。
- ・地域を生かしながら、地域が自立自走できるよう支援しようとするスタンスが非常に良い。カーシェアとバイクという車両を使ったまちづくり支援は、ノウハウの横展が可能であり、わかりやすい手法である。

取り組みで得た知見（これから取り組む方に伝えたいこと）

- ・ 移動支援・支え合いの仕組みづくりの専門家と、地域の調整役として主体的に活動できる地元団体の協働により、新たな共助の仕組みを地域に導入することができる。（本事業では当協会とグリーンウェブ入谷構想促進委員会が連携し、南三陸町でのCCS導入を実現）
- ・ 大学等専門機関と連携することで、取り組みの成果や意義に関する信頼性の高い調査が可能となる。（本事業では(株)日本総合研究所、東北大学加齢医学研究所、NPO法人 CRファクトリー、上智大学と連携）